令和6年度 六浦地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

六浦地域は65歳以上の高齢化率が高く(六浦地区:29%、六浦西地区:34%)、独居・高齢化世帯が多く、要介護認定率(約20%)、75歳以上の高齢化率(六浦地区16%、六浦西地区20%)も高い状況で、介護相談も増加傾向です。住民は古くから住んでいる方が比較的多くボランティア活動等、活発なインフォーマル活動が特徴です。土地は土砂災害警戒区域の指定場所が数か所、ハザードマップ(津波被害予想)で浸水危険地域も在り福祉避難所の役割も重要な地点です。坂道が多くインフラ整備が少ない地区もあり外出困難の問題が課題です。その様な地域課題に、(自助・共助・公助)の地域力で取り組むよう、地域の新たな担い手世代も取り組む仕組みを構築して、区、医療・福祉の関係機関で連携を強化し、様々な地域活動の推進や地域福祉保健計画を推進していきたいと考えております。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
☐	☒	広報紙発行頻度を増やしHPを読みやすくして、紙媒体とインターネット両方からアプローチをしていく。各機関や学校等と連携し、情報提供をする。
☐	☒	六浦ボランティアネットワーク、協議体であるささえ愛のつどいなど地域活動等で住民の意見を収集し、課題解決に向けた取組みを、多職種で連携、必要に応じて地域での事業へとつないでいく。
☐	☒	手芸を通じたボランティア部を発足し、そこからデイサービスやボランティアネットワークへのボランティアに繋げるようにする。また、福祉保健協力団体にはボランティア内容を分かりやすく説明してその団体にできるもの、生きがいとなるものを一緒に考える。
☐	☒	成年後見制度をはじめとする、本人の権利行使、代理することについて相談対象者の支援過程の中で関係機関の紹介、必要な機関へつなぐ支援を行なう。
☒	☐	毎月の会議・研修だけでなく、ケアプラザ内の行動目標を立てることで、共通の認識を持たせていきたい。(特に福祉避難所の確立・地区センターとの合同開催のフェスティバル)

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

新型コロナウイルスが第5類となって以降、事業の内容や参加人数も規模が増えてまいりました。フレンドまつりや六浦フェスタ等の大規模なイベントの再開や、ケアプラザの自主事業、地域へ外向講座の開催など事業の復帰も順調に行えましたが、事業を通じて地域の関係者間との共催による信頼関係の構築が出来ているのが、最も大きな成果の一つと言えます。それにより連合町内会長や民生委員、地域住民から地域の課題や必要情報が共有されるなど、ケアプラザの目的である地域における福祉活動、保健活動の振興と身近に提供できるサービスへとつながりが来ています。事業の実施には参画者の意見が反映されることが最も大事であり、今後もその実践を続けてまいります。また事業を通じて地域の課題である高齢化率の増加により生じている介護問題や、近年の自然災害によるBCP計画立案の遂行も急務とされています。今後もより一層の地域や行政、医療などの関係者との連携が求められていると感じており、計画立案や地域包括ケアシステムの構築に今季の成果を反映させて事業を進めてまいります。

区からのコメント

地域の身近な相談場所として、高齢者だけでなく障害のある方やお子さんのいる世帯の方など一人ひとりを大切に、しっかりと受け止めていこうという思いを持ちながら、取り組んでいらっしゃるのを感じられます。地域の課題を、若い世代も含め、自分事として考えられるようにという視点で事業展開をされており、多世代交流が着実に広まってきています。自分の地域に少しでも関心を持ってもらうことが、新たな担い手を生むことにつながりますので、引き続き楽しく一歩踏み出したくなるようなきっかけづくりをお願いいたします。高齢者等が地域で安心して暮らしていくためには、民生委員等地域の活動者やケアマネジャー、医療機関や介護事業所等とのネットワーク構築や連携がより重要となります。引き続き、地域への啓発に取り組んでいただくとともに、地域のニーズを踏まえた取組を進めていただきますよう、よろしく願いいたします。